


# 授業づくりのポイント

<p>授業前</p>	<p><b>1 本時の学習内容「何を学ぶか」をつかむ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題とゴールの具体化「何を学ぶか」「何ができるようになるか」を決める。</li> <li>・教師が教える箇所・児童に考えさせる箇所等「どのように学ぶか」を決める。</li> <li>・ねらいにせまる「中心発問」を考えておく。</li> <li>・「1時間の流れが見える」板書計画をたてておく。</li> </ul> <p><b>2 「何を学ぶか」に応じた教材研究</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の学びの支援となる具体物、ワークシート、ICT 資料等を準備する。</li> <li>・児童の実態把握が重要。「個に応じた支援」「効果的な ICT 活用」</li> </ul>
<p>導入</p>	<p><b>3 コンパクトでインパクトのある導入にする</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・短く、かつ子供の「やりたい」を引き出す導入で学習への興味・関心を高める。</li> <li>・本時の「ねらい（課題）」を明確にする。</li> </ul>
<p>展開</p>	<p><b>4 「何を学ぶか」に応じた課題設定・発問</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・短い言葉で伝わるよう、言葉を精選する。話しすぎない。</li> <li>・教師が説明せず、児童の発言に切り返し、問い返し、他の児童にも思考を促す。</li> </ul> <p><b>5 解決方法の見通しをもたせる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童との対話等を工夫し、主体的に活動の見通しをもたせる。</li> </ul> <p><b>6 個に考えをもたせる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自力解決の時間をもつ。見通しをもとに、一人一人に考えや意見をもたせる。</li> </ul> <p><b>7 児童の活動する時間を充実させる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペア、グループでの話合いやICT等の活用を図り、対話的な活動を充実させ、自分の考えをアウトプットさせる。</li> </ul> <p>※個の考えをしっかりとらせないと、学び合いは充実しない。</p> <p><b>8 ファシリテーターとして動く</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の考えを「つなぐ・まとめる・広げる」立場で動く「主役は子供」</li> <li>・一部だけの児童の発言だけで進めない。展開にあった考えを意図的に指名し発表させる。</li> <li>・全体での練り上げに向かい、意図的指名、意見を取り上げる順を工夫する。</li> </ul>
<p>まとめ</p>	<p><b>9 「まとめ」で学習内容の定着を図る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「課題」と正対した「まとめ」にする。児童の言葉を使ってまとめる。</li> </ul>
<p>終末</p>	<p><b>10 「振り返り」で自分の学びを振り返らせる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「何ができるようになったか」子供自身が実感できる時間にする。</li> <li>・本時のねらいに応じた自分の学びを振り返ることのできる視点を与える。</li> </ul> <p><b>11 次時につながる意識を高める</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習ノートとのリンクを図る。</li> <li>・次の学習への意欲を高める。</li> </ul>



# 皆小算数科授業スタンダード

## 本時・本単元で身に付けさせたい力を明確にする

授業の流れ	指導のポイント	時間
①前時までの学習を振り返る	・本時につながるような事項を押さえておく。	1
②問題を把握し、本時の学習課題をつかみ、見通しを持つ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題を提示し、わかっていること、聞かれていることを確かめる。</li> <li>・具体物や ICT などをも有効に活用し、提示方法を工夫する。</li> <li>○どんな見方、考え方をするか、どんな方法になりそうか、どのくらいになりそうかを見通させ、全体で共有する。</li> <li>○問題を通して、課題は本時のまとめと正対するように(児童とのやりとりを通して)設定する。</li> <li>※○は、順番が逆になることもある。</li> <li>・今まで学習したことが使えるか、似ている(違うところ)はないか確認する。</li> </ul>	10
③自力解決をする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実物操作(ブロック)をする。</li> <li>・絵図、言葉、式で考えをまとめる。(※筋道立てて表現できるようにする。)</li> <li>・個に応じた支援(スモールステップ、ヒントカード)を工夫する。</li> <li>・他の方法も考える。</li> </ul>	8
④比較・検討する(学び合い)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを友達に伝える。</li> <li>・友達の考えを聞く。</li> <li>・互いの考えを比較・検討させる。(同じ・違うところ、『は・か・せ』など)</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>机間指導で児童の考えを見取り、意図的に指名し全体で練り上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT を有効に活用する。</li> <li>・練り上げる。(観点を明確にして比較・検討)</li> <li>それぞれの考えのよさ、一番価値のあるもの、一般化した考え</li> </ul> <div style="text-align: right; margin-right: 50px;">  </div>	15 ～ 20
⑤まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の課題と正対したまとめを、児童の声を生かして作る。</li> <li>・適用問題を解き、見いだした数理のよさを味わう。数学的な価値付け</li> </ul>	5 ～ 10
⑥ふりかえり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が本時の自分の学びを捉え直せるように、振り返らせる。</li> <li>・次時への意欲付けをする。</li> <li>・振り返りの視点</li> <li>①新しくわかったこと、発見したこと②できるようになったこと③もっとしりたいこと</li> </ul>	5

※振り返りを共有する機会(発表・掲示)をとると、児童も書き方がわかってくる。